

Leading Web Services to their Full Potential...

W3Cでは、Web Servicesの可能性を最大限に導き出すべく、既存のWebアーキテクチャに即したWeb Servicesアーキテクチャと一連のコア技術を定義することで、その基盤の構築を目的としたWeb Servicesアクティビティを進めています。

国際化アクティビティでは、Web Servicesタスクフォースを組織し、世界中の全ての言語や文化を含めたWeb Servicesの世界的な広域利用に対し、十分な機能を備えているかを検証しています。

<http://www.w3.org/2002/ws>

Web Services

アクティビティの構成

- XML Protocol WG
- Web Services Description WG
- Web Services Choreography WG
- Web Services CG
- Semantic Web Services IG

主な技術文書

- Web Services Architecture [WG覚書] 2004.2.11
- SOAP Version 1.2 [勧告] 2003.6.24
- Web Services Description Language (WSDL) Version 2.0 [最終草案] 2004.8.3
- Web Services Choreography Description Language Version 1.0 [草案] 2004.4.27

主な連携団体

- Global Grid Forum (GGF)
- Object Management Group (OMG)
- Web Services Interoperability Organization (WS-I)

W3C Web services technologies

Choreography description (WS-CDL 1.0)

Service description (WSDL 2.0)

Messaging framework (SOAP 1.2)

<http://www.w3.org/International>

国際化

アクティビティの構成

- 国際化WG [Core TF, Web Services TF, GEO TF]
- 国際化IG

主な技術文書

- Character Model for the World Wide Web 1.0: Fundamentals, Normalization [草案] 2004.2.25
- Requirements for the Internationalization of Web Services [草案] 2003.12.17
- Web Services Internationalization Usage Scenarios [WG覚書] 2004.7.30





Leading the Web to its Full Potential...

<http://www.w3.org/>

W3Cは、Webの発展と相互運用性を確保するための共通のプロトコルを開発することによって、Webの可能性を最大限に導き出すべく、Web技術の標準化と推進を図る**会員制**の国際産業コンソーシアムです。世界各国から**400**近い組織が会員として参加しており、日本からはそのうち**33**組織が参加しています。

W3C会員特典

会員としてW3Cにご参加頂くことで次のようなメリットがあります。

- 技術仕様を策定するワーキンググループへの参加を通じた**国際的なWeb技術標準化への直接参加**
- 会員専用Webページやメーリングリストを通じた**最新仕様の入手**や業界の最新動向に基づく、他に**先駆けた戦略的な技術開発**や、国際標準に準拠した製品の**一早い市場への投入の可能性**
- 新技術の提案を通じた新たな標準化活動の立ち上げと、それに伴う**世界規模での新市場の開拓**
- 研究員や技術者の派遣を通じた、スタッフとの**人的・技術的交流**
- W3Cでの会員活動を通じた**世界規模での戦略展開**と、標準化への貢献による**組織イメージの向上**

世界の**最先端**を行く日本の技術を国際標準とするためにも、皆様の**積極的なご参加**をお待ちしております。

W3C慶應

W3Cの運営は、アメリカ合衆国 **マサチューセッツ工科大学計算機科学人工知能研究所 (MIT CSAIL)**、フランスに本部を置く **欧州情報処理数学研究コンソーシアム (ERCIM)**、日本の **慶應義塾大学SFC研究所** の3ホストが共同で行っています。

W3C 慶應は東アジア地区担当のホストとして、1996年9月よりW3C会員及び一般向けに、日本語による情報提供、Web関連技術の普及・広報活動を行っています。技術面では、**Semantic Web** とその基盤となる **RDF**、**HTML / XHTML** や **XForms**、**Web Services** も視野に入れたWebの**国際化**、機器に依存しないWebアクセスを実現する **Device Independence (DI)**、W3C技術の品質保証を確保する **Quality Assurance (QA)** などに取り組んでいます。

入会希望・お問合せはこちらまで → keio-contact@w3.org